

# アイデア評価結果の相互参照と再評価を通じたアイデア評価能力の育成手法



i.school プロジェクト・マネージャー 宮越浩子  
i.school インターン/東京大学薬学部薬学科 菊池 翔

## 要旨

新しいアイデアを創出するイノベーションワークショップを実施する大学、高校は近年増加している。しかし、創出されたアイデアを評価する方法は確立されておらず、イノベーションワークショップを運営するにあたって重要な能力であるアイデアの評価能力を育成するプログラムは存在していない。本研究ではTISP 2019で高校生が創出したアイデアを題材に、アイデア評価者が評価結果を相互参照することが評価者にもたらす変化を研究した結果、本手法により評価者がアイデアを評価する際の視点を増やし、アイデア評価能力を育成できる可能性が高いという結論を得た。

## 1. プログラム概要 – TISP2019について



TISP(Tokyo Innovation Summer Program)は、i.school生、海外大学生、高校生がチームを組んでイノベティブなアイデアの創出に挑むプログラムである。前半1週間は東京で大学生のみで、後半1週間は東京を離れて宮崎・香川の高校生とともにワークショップを行う。

### Week1: 東京プログラム

日時： 7/29～8/2  
場所： 東京大学  
参加者： 日本人学生 16名  
海外学生 14名

### Week2: 地方プログラム

日時： 8/3～8/9  
場所： 宮崎県・香川県  
参加者： 日本人学生 16名  
海外学生 14名  
高校生(香川) 27名  
高校生(宮崎) 32名

### テーマ：「中小企業のイノベーション」

1. 中小企業を訪問し、企業の強みを探す
2. フィールドワークの情報を整理し、企業の強みを抽出
3. 未来シナリオをもとに未来社会におけるニーズを分析
4. 企業の強みと未来ニーズを掛け合わせてアイデアを発想
5. プロトタイプを作り、アイデアを精緻化

## 2. アイデア評価の方法

### 評価参加者

高校教諭：6名(※)  
大学生：5名  
i.schoolスタッフ：3名  
※高校教諭には教育委員会指導主事を含む  
※高校教諭は再評価には4名が参加

### 評価項目

評価者は以下の4項目を5段階評価し評価理由を記入した。

1. アイデアが企業の強みを生かしているか
2. アイデアが適切な未来のニーズを捉えているか
3. アイデアによって未来のニーズは満たされるか
4. 総合評価

### 再評価の題材としたアイデア

#### 訪問先企業

グッドワーク(香川県のダンボール製造メーカー)

#### 企業の強み

ダンボールの印刷、加工技術、従業員のチームワーク、ダンボールへの愛情、知識

#### 未来ニーズ

高齢者、認知症患者の増加

#### アイデア

オーダーメイドのダンボール製認知症予防用おもちゃ。遊ぶ前におもちゃを組み立てる。脳を使うため、認知症予防になる

## 3. アイデア評価のプロセス

### 1. アイデア評価

TISP2019で提案された10個のアイデアをそれぞれ評価した。すべてのアイデアについて、評価参加者が「評価項目」に挙げる4つの観点で評価した。

### 2. 評価者ミーティング

評価参加者のうち、大学生と運営スタッフが集まり、アイデア評価に差が生まれた理由やアイデア概要等の記載方法を議論した。

### 3. 評価結果の相互参照

評価参加者の評価を集計後、再評価を行う1つのアイデアについて参加者全員の評価結果を評価理由とともに公開し、参加者が評価結果を相互参照した。

### 4. アイデア再評価

評価結果を相互参照した1つのアイデアについて、評価参加者がアイデアの再評価を行った。また、再評価時のアイデア評価が1度目の評価から変化したか否かとその理由を回答した。

### 5. 再評価結果の分析

各評価参加者の評価の変化や再評価が評価者に与えた影響を回答をもとに分析した。

## 4. 結果

評価結果の相互参照によってアイデアに対する自身の評価が変化したか否かについて、評価者9名中6名が「変化があった」と回答し、2名が「変化がなかった」と回答した。

### 評価参加者のコメント(抜粋)

- 他のコメントを見ながら、自分だけでは持ち得ない多様な価値基準を得ることができた。(高校教諭)
- 他の人の評価とその理由をみて、自分が以前はあまり注目していなかったアイデアの側面を再検討したから、このような変化が起こったのだと思います。(大学生)
- 他の人の評価を見ることで、アイデアの良さや悪さについて新しい観点が得られた(大学生)
- 他の方の評価を読んで、高い数字をつける評価も低い数字をつける評価も自分のなかに選択肢ができた。その上で、自分はどちらを選ぶのか考えることができ、1回目から評価が変わったと思います。(大学生)

評価者ミーティングにおいては評価がばらつく理由として、「企業の基本的情報を評価者が把握しているか否か」や「企業の強みを生徒の発表内容のみで評価するか評価者の把握している他の強みも含めた評価とするか」などが挙げられた。

## 4. 考察

アイデアの評価の際には複数の観点からアイデアの質を検討する必要がある。アイデアの評価結果を評価者間で相互参照し再評価を行うことは評価者の持つ評価の視点を増やし、評価能力を育成するために有用な手法であると考えられる。

また、アイデアの評価は個人が予め持っている情報や評価基準の解釈によって差が生じやすく、複数人によるアイデア評価の際には評価時に参考にする情報や評価基準を明確にする必要がある。